

第6回 八重山医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成28年11月28日（月） 13時～15時

場 所：沖縄県立八重山病院 2階 第1会議室

テーマ：八重山医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立八重山病院 院長 依光 たみ枝
沖縄県立八重山病院 看護部長 渡口 直子
沖縄県立八重山病院 副看護部長 中山 幸子
沖縄県立八重山病院 地域連携室師長 宮良 久美江
沖縄県立八重山病院 地域連携室副師長 平良 芳子
沖縄県立八重山病院 地域連携室 伊良皆 香代
沖縄県立八重山病院 看護師 金城 美奈子
沖縄県立八重山病院 医事課 主任 金城 香澄

八重山地区医師会 会長 上原 秀政

石垣市健康福祉センター 所長 具志堅 智

八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会長 新城 純
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 黒島 富士子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 事務局 宮國 惠慈
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 新城 まさ子
八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 会員 平良 秀之

沖縄県健康長寿課がん対策班 主査 徳田 麻紀子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人
陪席者：石垣市立図書館 副主幹兼資料サービス係長 久原 道代
琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶 <5分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
配布資料を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 出席者の紹介 <5分>

オブザーバー参加の石垣市立図書館 久原副主幹兼資料サービス係長から挨拶があった。

3. 報告事項

(1) 第5回八重山医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告 <3分> 【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人
前回の議事要旨が報告された。

(2) 第5回協議会から昨日までのがんに関する取り組みについて <各3分程度> 【口頭】

がんに関する取り組みについて、各団体の代表者より下記の報告があった。

【やいまゆんたく会】

田盛副会長から活動状況の報告があった。トピックスとして9月久米島のがんフォーラム参加、10月八重山病院による出前講座、12月石垣市健康福祉まつりでのがん講演などが挙げられた。久米島では黒島副会長による体験講話、会員によるハーモニカ演奏に大きな反響が寄せられた。ハーモニカによる各施設慰問も予定しており、会全体として精力的な活動が続いている。また今年度のピアサポート基礎研修を修了した黒島副会長からは「自分自身がいまだから話せること、周囲にフィードバックできることがあった。がんと向き合っている仲間とさらに交流を深めたい。実り多い研修だった」と報告があった。

【沖縄県立八重山病院】

依光病院長から報告があった。①がん相談員研修参加について／②緩和ケア専従認定看護師研修参加について／③苦痛のスクリーニング実施状況について／④患者会、訪問看護ステーションでの出前講座等の院外活動について。①は2名のがん相談員が研修を終えた。②は神戸にて1名が研修中で、期間は2月後半まで。③については②にも関連するが、院内における緩和ケアチームの動きが活発化しており、外科の尾崎医師、化学療法認定の内田看護師を中心に進められている。丁寧な聞き取りはしっかりと電子カルテに反映されており、大きな進歩を感じている。

【八重山地区医師会】

上原会長から報告があった。八重山地区医師会の理事会にて、①前回から本協議会に参加していること／②本協議会にて八重山医療圏のがん医療やがん政策について協議していること、以上2点を役員に向け情報共有した。医師会所属の内科医が、本島での治療を終えたがん患者のフォローをしているケースはある。今後、協議が必要な事案があった際には、この場を活用したいと述べた。

【石垣市市民保健部健康福祉センター】

具志堅所長から報告があった、平成 28 年度渡航費助成事業について、4 月から 9 月までの申請件数は 106 件、うち悪性新生物は 74 件であった。本事業については 29 年度予算も厳しい見通しである。

【琉球大学医学部附属病院がんセンター】

増田センター長から報告があった。本日、石垣市立図書館の久原副主幹がオブザーバー参加しているが、昨年度より図書館と連携した情報提供を試みている。現在、県委託のがん患者等支援事業の一環として、がん関連図書を県立図書館に寄贈するプロジェクトを進めている。すでに 300 冊ほど選書し、発注準備が整った。寄贈図書は 30 冊 1 セットとし、市町村図書館等に貸し出す予定である。

4. 審議事項

(1) 八重山医療圏がん医療連携協議会実施要項の制定について<15 分> 【資料 2】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

本件は 7 月協議会からの継続審議事項である。本協議会の要項を定める。

<状況>

前回に引き続き要項制定に向けた調整を行う。各自修正を加えた要項案を増田が読み上げ、出席者全員で確認を行った。依光病院長から「本協議会は八重山医療圏のがん医療を考える会であり、竹富町・与那国町も入れたほうがよい」と意見があった。患者会の田盛副会長も「委員と定めることで、役場内での出席調整が可能になるのでは」述べ、参加者の承認が得られたため、明記することが決定した。

<協議結果>

- ・第 2 条に以下を追記する。竹富町健康づくり課から 1 人
- ・第 2 条に以下を追記する。与那国町長寿福祉課から 1 人
- ・第 2 条を以下に改める。八重山病院の総務課から若干人→八重山病院の総務課長
- ・要項最終案を各委員に送付し、確認の後、制定とする。

(2) ファミリーハウス設置等、宿泊支援に関する提案について<15 分> 【資料 3】

・八重山のがん患者を支援する・やいまゆんたく会 副会長 田盛 亜紀子

旧石垣空港跡地にできる新八重山病院の近隣に、離島から通院する患者又は入院している患者の家族が格安で宿泊できるファミリーハウスの設置を検討してほしい。又は、石垣市内で建設業を営む(株)信用組が平成 29 年に開業予定の特化ホテルに、最初から格安で宿泊できるような支援の方法を検討してほしい。

1. 要望に至った状況

八重山圏域には航空機を利用できない多くの離島を抱えているため、船便での通院を行う患者が多い。そのため船便等の都合で日帰りの治療ができない場合や、高齢者には肉体的な負担が大きい場合がある。また、入院している子供の親や妊産婦のお産までの宿泊等に資する場としても、格安での宿泊は必要であると考え。難病患者やがん患者に対する現在の宿泊支援制度は利用手続き等が面倒である上に、本島では病院の近隣にホテルが無く、利用する患者がほとんどいない状況にあるといわれているが、新八重山病院の近場に建設されるホテルは宿泊を伴う患者にとっては朗報である。是非、必要な方が多く利用できる措置を講じていただけるよう関係者で検討してほしい。

2. 実施により期待される効果

現在石垣市内のホテルは、多くの観光客で宿泊が予約できない状況にあるといわれており、通院のために宿泊できるホテルは予約が難しいこともあるが、宿泊料金が高く大変だともいわれている。格安で宿泊できる施設の設置やホテル等は金銭的にも肉体的にも患者への負担を軽減できるため、早急な対策を講ずることが必要で、実施による効果は大であると思料する。

<状況>

新聞報道のコンパクトホテルは、素泊まりで1泊3,800円を予定。石垣市内の医療施設を利用する離島住民も宿泊できるという。ゆんたく会 田盛副会長は「本件は竹富町・与那国町民の負担軽減案である。ホテル旅館生活衛生同業組合による宿泊支援制度を緩和し、コンパクトホテルへの宿泊支援を可能にしてほしい」と要望した。同会員で石垣市議会の平良議員は「宿泊支援制度は組合の厚意。対象施設は老舗ホテルが多く、そもそも宿泊料金が低い。県の財政支援はない」と補足した。新城会長からは「竹富・与那国の各町で財源確保ができれば、それに越したことはない。妊婦の船賃補助を制度緩和し、がん患者等に拡大しては」との提案も出た。

<協議結果>

- ・ 格安で宿泊できる宿泊支援制度を要望する。【患者会】
- ・ 本件について、患者会から要望書を提出してはどうか。【八重山病院⇒患者会】
- ・ 竹富町・与那国町・石垣市からなる広域議会に要望書を提出する。【患者会】
- ・ 県による宿泊支援を考える場合も、自ら建設・運営をしない本案の形が現実的施策ではないか。
【患者会(平良議員／石垣市)⇒県健康長寿課】
- ・ 与那国町・竹富町の健康づくり担当者に本要望を伝える【増田⇒協議会】
- ・ 離島患者の通院の現状について、健康長寿課内で情報共有する。【増田⇒県健康長寿課】

(3) 呼吸器内科医・腫瘍内科医の配置について<15分>【資料4】

・ 沖縄県立八重山病院 地域連携室 宮良 久美江 平良 芳子 伊良皆 香代
沖縄県に対し、地域連携室の宮良師長から呼吸器内科医・腫瘍内科医配置に関する要望が寄せら

れた。要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

1. 要望に至った状況

肺がん罹患患者の増加に伴い、島内、島外からの当院への紹介患者も増加している。島外での手術や放射線治療後、当院での化学療法、緩和ケアを希望し紹介されるケースも年々増加傾向である。しかし、当院の呼吸器内科は現在週 1 回の応援体制であり、常勤医師は不在である。昨年までは、腫瘍内科医が 2 名常勤していたため、常勤の呼吸器内科医が不在でも、肺がん患者の化学療法や緩和ケア、紹介患者の相談などの対応などは比較的スムーズに行えていた。しかし、3月に腫瘍内科医 2 名が退職したことで、日々の紹介患者の受入れ相談や化学療法患者のレジメン相談などを、専門外の内科医やがん化学療法看護認定看護師が相談を受け対応しているが、常勤の医師が不在であることから、身体的だけでなく精神的な負担が大きい。

2. 実施により期待される効果

- 1) 受入れ患者の増加（島外・島内からの紹介患者受入れ）
- 2) 常勤医師がいることによる患者・家族の不安軽減
- 3) 医療者の不安や身体的・精神的負担の軽減
- 4) がん治療、緩和ケア治療の質の向上

<状況>

本件は7月協議会からの継続審議事項である。宮良地域連携室師長より「今日までも状況は変わらず呼吸器内科医の常勤はゼロ。週 1 回の応援体制である」と報告があった。依光病院長は「医師の人事を院内会議で話し合っている。2 年後に常勤の可能性が出てきたが、すぐにとというのは難しい。来年も応援体制は続くだろう」と述べた。増田は「石垣市の人口では、最低でも 1 人は呼吸器内科がいなければならない」と述べ、県がん対策班 徳田主査に向けて「本件を課内で情報共有してほしい」と伝えた。

<協議結果>

- ・呼吸器内科不在の現状について、健康長寿課内で情報共有する。【増田⇒県健康長寿課】

(4) 経済的困窮者の支援体制の構築について<15分>【資料5】

・沖縄県立八重山病院 地域連携室 平良 芳子 宮良 久美江 伊良皆 香代

地域連携室の平良副師長より、沖縄県ならびに石垣市に対し、経済的困窮者の支援体制の構築に関する要望が寄せられた。要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

1. 要望に至った状況

経済的困難が理由で、治療継続への不安があり相談を受けるケースが際立つ。既存の利用でき

る制度はあるが（傷病手当等）治療を継続するための十分な支援には至っていない現状がある。もともとの生活水準が低いため、治療費の捻出ができなくなるケースもある。治療しながらの就労も厳しいこともあり、特に、就労・子育て世代への経済的な支援体制の構築の必要性は高いと考える。

2. 実施により期待される効果

1) 経済的な不安と負担緩和

<状況>

本件は7月協議会からの継続審議事項である。前回は、経済的困窮者のなかでも、生活保護の受給基準に満たない世帯に関して検討を深める必要がある点で認識が一致した。平良地域連携室副師長は「子育て世代は多忙だ。とりわけ一人親の場合、経済的余裕もない。末期になるまでがんを放置している。ぜひ経済支援を行ってほしい」と訴えた。具志堅所長は「次年度の予算要求は、前年度より低くという方針がある。そのなかで新たな医療制度を設けることは難しい」と述べ、財政力の問題を挙げた。平良議員は平良地域連携室副師長に向け「生活保護は医療扶助のみ受けることもできる。生活を苦しめている要因が医療費であれば、相談時にそうした福祉活用の提案もできるのではないか」と助言した。

患者支援に関連し、①渡航費助成 ②就労支援についても意見が交わされた。①について平良地域連携室副師長は「本島で治療を終え当院に通院する患者に、助成制度を知らない人が多い。もとは市内の他院やクリニックにかかり、本島に渡った患者だ。市民の理解が深まるよう、石垣市から働き掛けてほしい」と要望した。②は増田から「自ら仕事を辞める人が多い。改善には主治医の積極的な関与が重要だ。確定診断時に、患者に仕事を辞めないように伝える。そして生活環境の維持を目指すという治療方針を明言することだ」と述べた。さらに「琉大病院の社労士相談だが件数は少ない。八重山病院では、がんと就労に積極的な社労士を一人確保し、必要に応じてつなげていく措置を取ってはどうか」と提案した。また琉大病院内で稼働中の就職ナビゲーターにも触れ「全国的には成果が見られる。県内で意味ある活動につながるのこれからだろう」と述べた。

田盛副会長は「石垣市福祉まつりの基調講演は、今年も認知症がテーマだ。一方がんは、前日のイベントとして、2年連続で患者会が講演会を開催している。がんは全ての世代に身近な病気。中高生にも聞いてほしい。市の主催ならもっと集客数が伸びる」と述べ、次年度は市の主催で、がんをテーマに市民講演会を開くこと強く要望した。

<協議結果>

- ・財政状況から、新たな医療制度を設けることは難しい。【石垣市】
- ・渡航費助成制度の積極的な広報を求める。【八重山病院⇒石垣市】
- ・がんと就労の両立支援について、医療機関のアクションを文書化し、地区医師会を通じて通達してはどうか。【増田⇒八重山地区医師会】
- ・がんをテーマとした市民講演会を開くこと要望する。【患者会⇒石垣市】

(5) もしも島でがんになったら in 石垣島 開催協力をお願い<10分>【資料6】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

1/21 (土) 石垣市立図書館で開催のイベントについて本協議会の協力を仰いだ。

<協議結果>

- ・がん患者さんのための療養場所ガイドの設置・配布協力【八重山病院】
- ・イベントチラシおよびポスターの設置協力【石垣市】【保健所】【八重山病院】
- ・イベント参加の声掛け【石垣市】【保健所】【八重山病院】【患者会】
- ・当日のピアサポート補佐【患者会 (ピアサポート基礎研修修了生)】

(6) その他

石垣市立図書館 久原副主幹は「新八重山病院にはぜひ図書を置いてほしい。医学書だけではなく、新たな希望を見つけられる図書を置き、利用していただきたい」と述べ、今後の連携に期待する旨を述べた。

5. 閉会のご挨拶 <5分>

・沖縄県立八重山病院 病院長 依光 たみ枝先生

「本協議会は、いまや病院と患者会の話し合いに留まらず、公的機関を巻き込んで支援しようという流れになってきた。これはとてもいいことだと思う」と述べ、すべての議事を終了した。

第7回 宮古医療圏がん医療連携協議会 議事要旨

日 時：平成28年11月4日（金） 14時～16時

場 所：沖縄県立宮古病院 3階 講堂2

テーマ：宮古医療圏におけるがん医療をみんなで一緒に考えよう

出席者：沖縄県立宮古病院 院長 上原 哲夫

沖縄県立宮古病院 副院長 本村 悠子

沖縄県立宮古病院 副看護部長 小禄 範子

沖縄県立宮古病院 地域連携室室長 佐渡山 英子

沖縄県立宮古病院 外来救急室 認定看護師 青沼 裕美子

沖縄県立宮古病院 薬剤師 垣花 真紀子

沖縄県立宮古病院 4西病棟師長 金城 春美

宮古島市生活環境部 健康増進課 係長 島袋 英虎

宮古島市生活環境部 健康増進課 主任主事 儀間 康子

宮古保健所 健康推進班 保健師 知花 真希

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次

離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会計 小路 千恵子

サバイバーナースの会 びあナース 新城 みゆき

まんま宮古 会長 深澤 麗子

琉球大学医学部附属病院がんセンター センター長 増田 昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター 事務補佐員 又吉 未央

協議会の様子：



1. 開会のご挨拶<1分>

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

議事次第、資料集を確認の後、以降は司会増田より議事進行が行なわれた。

2. 報告事項

(1) 第6回宮古医療圏がん医療連携協議会議事要旨報告<5分>【資料1】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

前回の議事要旨が報告された。

(2) 乳がん講演会での患者体験談と患者会紹介の実施について<5分>【資料2】

・まんま宮古 会長 深澤 麗子

深澤会長より報告があった。10/6 宮古保健所で美容師組合の会員対象に乳がんの講演会が開催され、まんま宮古は体験講話と活動紹介を行った。終了後は宮古島市健康増進課と共に、ピンクリボン運動事務局 (J. POSH) から無償提供されたポケットティッシュを街頭で配布した。

宮古保健所 知花保健師は「乳がん検診の重要性をテーマに講演を行った。参加者 39 人は女性客と接する機会も多く、市民への拡散に期待を寄せている。内容について『他の人にも教えてあげたい』『知人や友人にも検診を勧めたい』と好評であった」と述べた。

(3) ファミリーハウスの設置を求める要請書提出について<5分>【資料3】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

真栄里会長より報告があった。9月県議会にファミリーハウスの設置を求める要請書を患者会5団体の名義で提出した。

(4) 亀濱議員による県議会一般質問について<5分>【資料4】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

離島在住のがん患者らに対する宿泊費等の負担軽減に係わる新聞報道について、情報共有があった。9月県議会での亀濱玲子氏 (社民・社大・結連合) の一般質問によるもの。

(5) 花を咲かせるプロジェクトの進捗について<5分>【資料5】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

真栄里会長より報告があった。当プロジェクトに協力する関係者に対し、上原病院長より礼状が届いた。市みどり推進課の「花いっぱい推進事業」に申込み、花の苗の無償提供を受ける予定である。

3. 審議事項

(1) 宮古医療圏がん医療連携協議会実施要項の制定について<15分>【資料6】

・琉球大学医学部附属病院 がんセンター長 増田 昌人

本件は7月協議会からの継続審議事項である。本協議会の要項を定める。

<状況>

前回に引き続き要項制定に向けた調整を行う。各自修正を加えた要項案を増田が読み上げ、出席者全員で確認を行った。

<協議結果>

- ・ 附記2の記述に誤りがあった。以下に改める。誤：第17号→正：第15号
- ・ 宮古地区医師会は別途調整の上、委員を定める。
- ・ 要項最終案を各委員に送付し、確認の後、制定とする。

(2) 血液がん治療と診療体制について<15分>【資料7】

・ 離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 副会長 川満 敏次

要望に至った状況ならびに実施により期待される効果は下記のとおりである。

1. 要望に至った状況

本件は7月協議会に続き、再審議事項である。中部病院から朝倉先生の循環診療が始まり約1年が経つ。精神的には心強いが、診察は宮古病院、治療は徳洲会病院という患者にとって不都合な状況は変わらない。7月協議会では状況改善は困難とのことであったが、現在の状況について報告がほしい。拠点病院の宮古病院で、診察から治療まで一貫してできないものか。患者が精神的に安心して治療できる体制を早急に整えてほしい。

2. 実施により期待される効果

住み慣れた地域で安心して治療できる。体力的負担、経済的負担、精神的負担が軽減される。

<状況>

上原院長から報告があった。診療体制の充実が思うように進んでいない。その要因のひとつが内科分野の専門化である。医師に、専門外の分野で患者を診療した場合のリスクを避ける傾向があるため、院内で朝倉先生をフォローする体制が築けない。常勤医の配置を望むが、現実的な改善案は派遣医師の増員であり、他病院へ派遣をお願いするしかないと述べた。

本村副院長は看護体制について発言し、県全体で認定看護師の育成に取り組む方向性だ。宮古病院では、緩和ケアと化学療法の認定研修参加を計画している。長期研修のため、現場の人員調整はかりながら進めていきたい。

ゆうかぎの会 小路さんは「どの患者にも共通することは安心して治療を受けたい、ということ。病気になり患者は精神的ダメージを負う。経済的事情、治療内容、医師との出会い、それら全てを含めて、一番求めることは安心。いま川満さんが置かれた状況は安心からほど遠い」と述べた。

<協議結果>

- ・ 関係各所に、宮古病院での診断から治療まで一貫した診療体制の確立を求める。【患者会】
- ・ 本協議会に参加のない医師を中心に、この問題について幹部会等で情報共有してほしい。【増田→宮古病院】
- ・ 内科医師による話し合いが必要だ。医局会の議題としたい。【宮古病院】

(3) 日本オストミー協会講演会 開催協力をお願い<15分>【資料8】

・日本オストミー協会沖縄県宮古支部 支部長 下地 一正

12/2に日本オストミー協会主催の講演会を予定している。開催にあたり本協議会関係者に協力をお願いしたい。

<状況>

下地支部長が欠席のため、真栄里会長(ゆうかぎの会)が代理報告をした。お願いしたいのは、①宮古病院の皮膚排泄ケア認定看護師に、ミニ講演や情報提供をしてほしい。②会場を無料で貸し出ししてほしい。③宮古島市に福祉手続きに関する説明をしてほしい。以上3点である。

①②の申し出を受けた佐渡山地域連携室室長は、これを快諾。認定看護師、琉球光和とも連携し、進める旨を報告した。

③は、身体障害者手帳の交付や税金免税、障害年金など、オストメイトを支える福祉制度に関する説明を求めるものであるが、主に福祉部の管轄業務であるため、持ち帰り対応となった。本件に関連し、ぴあナース 新城さんから身体障害者手帳について発言があり「(宮古島市の場合)交付に時間がかかった。オストメイトは初期の出費が多く、申請から交付までの期間は自費だ。沖縄本島ではもっと早いと聞いている。むろん格差があってはならず、この点について調べてほしい」と、出席の健康増進課市職員に福祉部への伝達を求めた。

<協議結果>

- ・皮膚排泄認定看護師による講演、会場提供を行う。【宮古病院】
- ・下地支部長から福祉部に向け、担当者による会場での説明(③)を再度要望する。【増田⇒患者会】
- ・身体障害者手帳の交付にかかる期間について調査・検証を要望する。【患者会⇒宮古島市】
- ・オストメイトをサポートする福祉制度について、担当する部課を調査する。【本協議会⇒宮古島市】
- ・本協議会や説明会の場に出向き、担当職員から福祉制度の説明がほしい。【宮古病院⇒宮古島市】
- ・排泄障害を知られたくない思いから役所窓口に行けない人も。情報提供に加え、行動を促すことも重要だ。【増田】

(4) ルミナリエ宮古島 開催協力をお願い<15分>【資料9】

・サバイバーナースの会 ぴあナース 新城 みゆき

浦添運動公園で行われるリレーフォーライフと連動して、宮古島でもルミナリエを行いたい。日程は11/12(土)、会場はカママ嶺公園あずま屋付近で、17時集合/18時灯火/21時解散を予定している。本協議会の皆さんにも、参加・協力をお願いしたい。

<協議結果>

- ・宮古島市、リレーフォーライフ本部に開催連絡済み。【患者会】
- ・イベントチラシを作成してほしい。【増田⇒患者会】
- ・来年度はリレーフォーライフの計画当初から実行委員会とコンタクトを取り、本島開催と足並みを揃えたい。【患者会】

(5) 難病患者等に係わる航空運賃の助成について<15分>【資料10】

・離島圏におけるがん患者支援を考える会・ゆうかぎの会 会長 真栄里 隆代

県が航空運賃助成の予算を組むとの新聞報道を見た。そのような事態であれば、今後沖縄県と協力し、航空運賃の増額改定や申請回数の見直しをしてほしい。

<状況>

真栄里会長から「前回は本件について審議したが、市は予算上の理由から、制度見直しは厳しいとの返答だった。(報道を受けて) 県と協力すれば、制度改善は可能ではないか。現在、市が定める内容は上限1万円・年2回まで申請可能だが、航空運賃は『離島割』の実費精算に改め、かつ回数を増やしてほしい。また同行者の支援条件を『患者が要介護状態である』から『医師が必要と認めた場合』と変更してほしい」と要望した。

発言を受けた市健康増進課 儀間主任主事は「本件について10月に県と協議し、実績報告も行った。しかし現時点において県側の支援が決定したわけではなく、未だ検討段階である。こちらも県の動向を見ながら、となる」と述べた。報道内容については、進行の増田からも補足があった。

川満副会長は「市は、航空運賃の助成申請に来る人の渡航実態や治療経歴を把握しているのか」と尋ね、「難病指定が増えたので、金額や回数を増やせないと回答があったが、むしろ予算を増やすべきではないか」と予算の妥当性に疑問を呈した。「助成の上限は年2回だが、実際は何回渡航しているのか。申請に来た時点で、聞き取り調査してほしい」と述べ、市に対し予算額の根拠となる実態把握を求めた。

<協議結果>

- ・今後の県の動向を注視する。【宮古島市】
- ・航空運賃の実費精算、渡航回数増、同行者の条件変更を希望する。【患者会】
- ・渡航回数の実態調査を実施してほしい。【患者会⇒宮古島市】
- ・誰に対して最も支援が必要か検討した上で、改めて要望してはどうか。【増田⇒患者会】

(6) その他

以下事項について、報告や確認があった。

<砂川泰彦氏 絵画展開催>

患者会：パーキンソン病を患う砂川泰彦氏の絵画展を開催したい。以前の協議会で上原病院長の了承は得ている。

本村副院長：総務課長と調整する。

<オープンホスピタル開催御礼>

患者会：2回目となったオープンホスピタル参加について御礼を言いたい。今回は反応も良かった。

本村副院長：昨年3倍の来院数であった。次回もぜひ参加してほしい。

<花壇の命名>

花を咲かせるプロジェクトについて、国立がんセンターの若尾先生から花壇に名前を付けてはとの提案があった。患者会が勝手に決めていいものか。

本村副院長：ぜひ患者会で命名してほしい。

4. 閉会のご挨拶 <5分>

すべての議事を終え、閉会となった。

琉球大学医学部附属病院がんセンター
平成28年度がん患者等支援事業

がん療養場所ガイド活用説明会in 伊平屋島に関する報告書

2016年9月30日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を伊平屋村で実施した。活用説明会では伊平屋診療所の船戸医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、伊平屋村役場、伊平屋診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 伊平屋島 開催にともなう面会依頼

(伊平屋村役場)

日 時：平成28年9月30日（金）15：00～15：30

場 所：伊平屋村役場

出席者：伊平屋村役場 村長 伊礼幸雄 様

伊平屋村役場 住民課 課長 仲川克子 様

伊平屋村役場 住民課 係長 新城順治 様

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター事務補佐員 又吉未央

(伊平屋診療所)

日 時：平成28年9月30日（金）17：00～17：30

場 所：伊平屋診療所

出席者：伊平屋診療所長 船戸真史 様

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター事務補佐員 又吉未央

■療養場所ガイド活用説明会in伊平屋島

日 時：平成28年9月30日（金）19：00～20：00

場 所：伊平屋村産業連携拠点センター プレゼンテーションホール

内 容：（1）講演「伊平屋診療所のがん治療」

伊平屋診療所長 船戸真史 医師

（2）「本書の使い方、入手方法について」

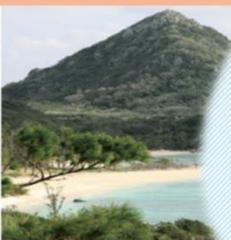
琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

（3）質疑応答

患者さんのための 療養場所ガイド

伊平屋村・伊是名村・伊江村編

琉球大学医学部附属病院 がんセンター



がん専門医が伝える 病院・診療所の上手なかかり方 もしも島で がんになったら

伊平屋村のみなさまへ
現在、多くのがん医療が県立北部病院や北部地区
医師会病院で行われています。また地元診療所と
連携して、できるがん医療も多くなってきています。
今回の説明会では、伊平屋村や本島北部でできる
がん医療について、専門家の立場からお話したい
と思っています。

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長
増田 昌人

—がん療養場所ガイドブック活用説明会in伊平屋島—

(講演)

- ・伊平屋村でできるがん医療について 伊平屋診療所 船戸 真史 先生
- ・本書の概要と使い方について 琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人

日 時:9月30日(金) 19:00-20:00(18:30開場)

場 所:伊平屋村産業連携拠点センター プレゼンテーションホール

対 象 :伊平屋村にお住まいのみなさん

参加費 :無料

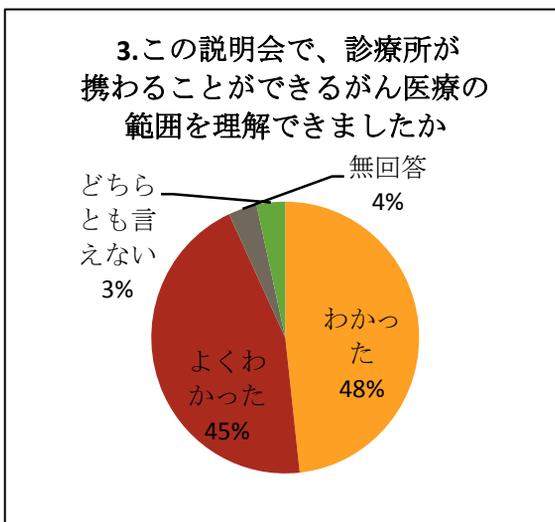
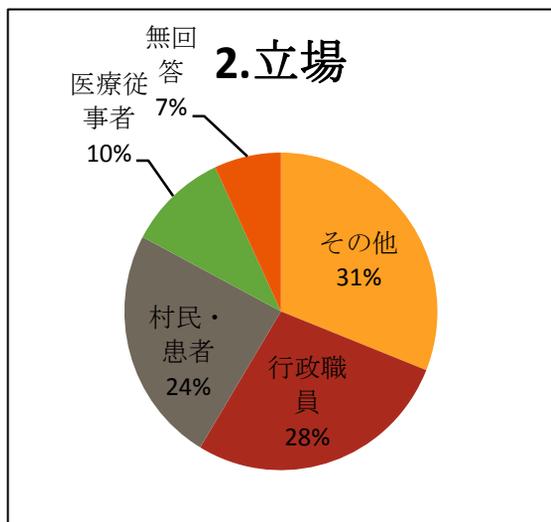
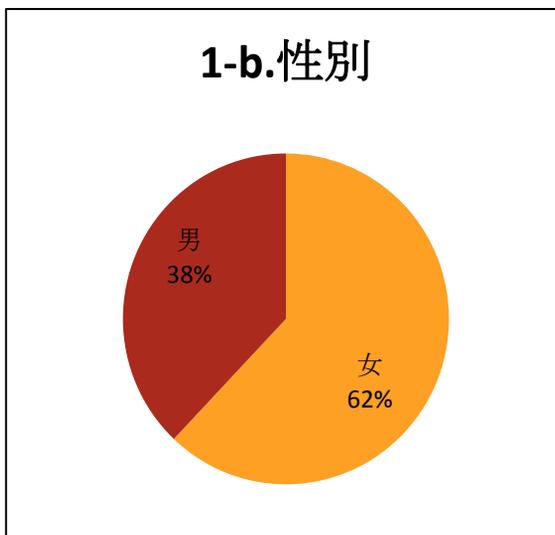
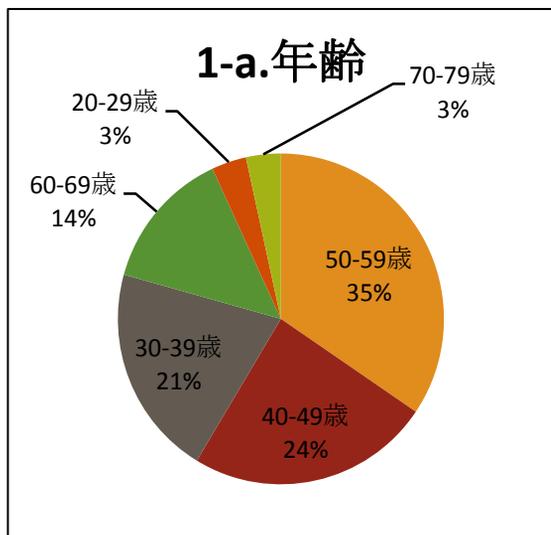
伊平屋診療所のがん治療

2016年9月30日 船戸真史

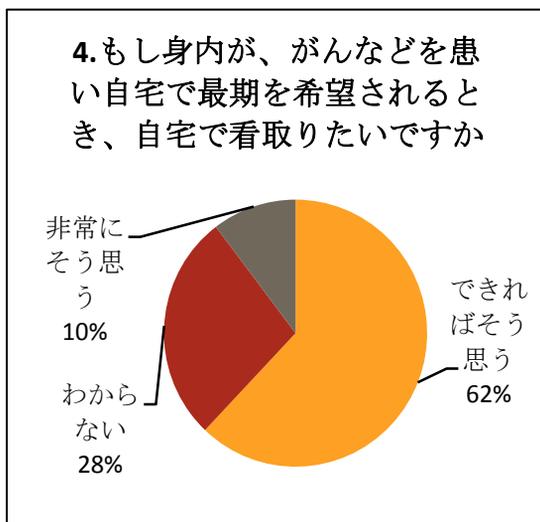
がん患者さんのための療養場所ガイド 活用説明会 in 伊平屋村

琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人

2016年9月30日（金）
がん療養場所ガイドブック活用説明会伊平屋村
参加者33人 アンケート回答率87.9%



2016年9月30日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会伊平屋村
 参加者33人 アンケート回答率87.9%



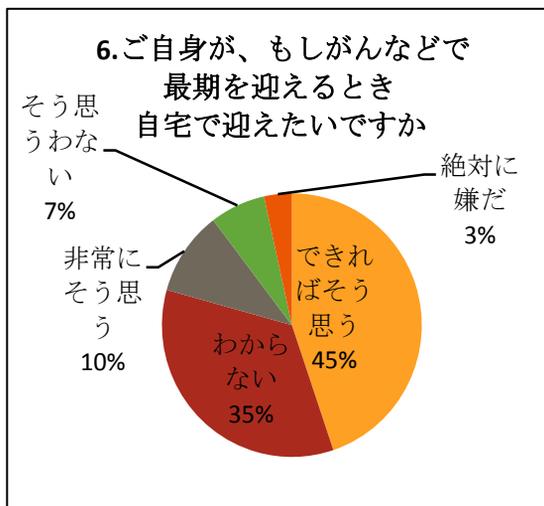
5. 4の理由を教えてください

大変だとは思いますが、本人の事を考えると生まれ育った所で一生を終えたいじゃないかと？
 本人は自分の家で亡くなることは安心だと思います。
 最後は本人の希望を通したい。
 本人の希望を尊重したい気持ちもある反面、不安もある。
 身近にそういう家庭があり、周りの友人、親族に支えられていたいと思います。本人が怖がり
 だった方だったので、治ると思いながらがんばっていました。それも家族で支えていました。

- ・ お金、費用（医療費）
- ・ 家族の負担、高額医療制度を使っても額的に負担。

苦しむ姿を見たくないの。
 最期ぐらい島で過ごさせたい。
 自分が生活していた場所で安心して逝きたい。逝かせたい。
 父親が3年前にがんで亡くなった時に病院で寂しくがんと戦っていたんだらうなと思い、父親
 を家で看取ってあげればよかったとすごく後悔したから。
 痛みが伴うので、気持ち的には自宅で看取りたいと思うが現実的には厳しいと思う。
 希望というならば…。
 苦しむ姿を直視できるのかわからないの。
 わたしの母は島で看取りたいと思っています。
 自宅で最期、島で最期を迎えたいという思いがあると思うから。
 本人の意志に添いたいと思う。（できる限り）家族で看取ることができる状況であれば…です
 が。
 本人の意思確認で、本人が希望するならなるべく叶えてあげたい。
 本人がそれを望むなら多分受け入れられると思う。
 残り少ない時間を病院等で寂しく過ごすより家族で助け合い見守ったほうが人生の最期にふさ
 わしいと思うから。
 我が生まれ育った島が好きだし、家族に心配を掛けず静かに旅立ちたい。
 希望にそって叶えてあげたい。

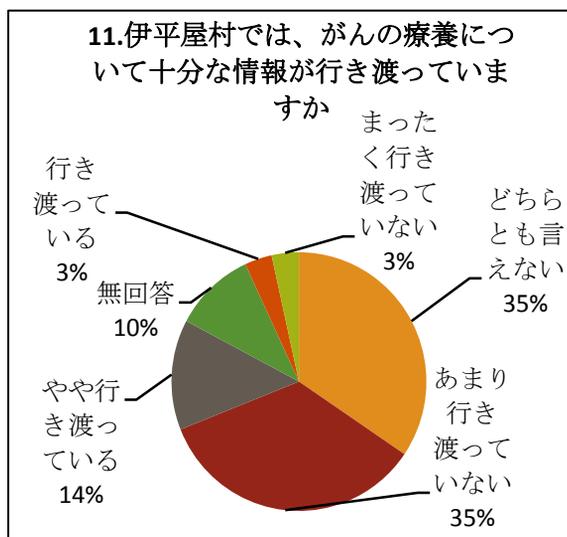
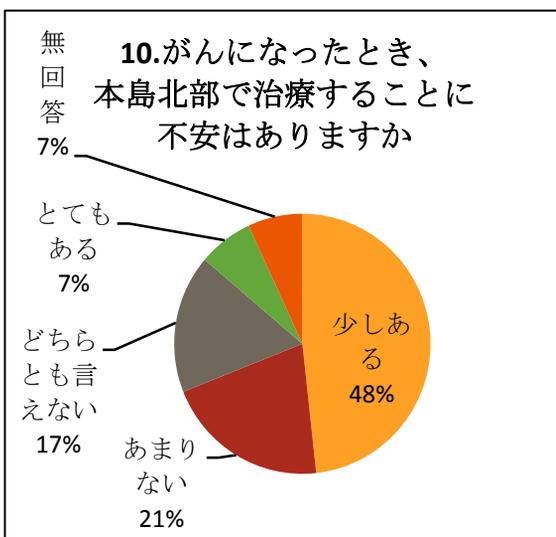
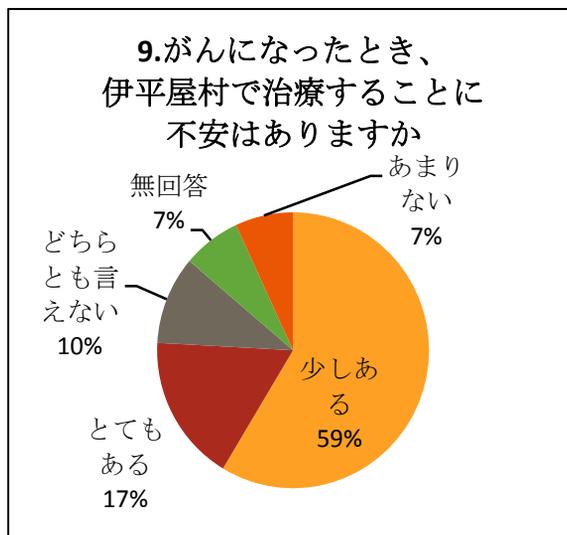
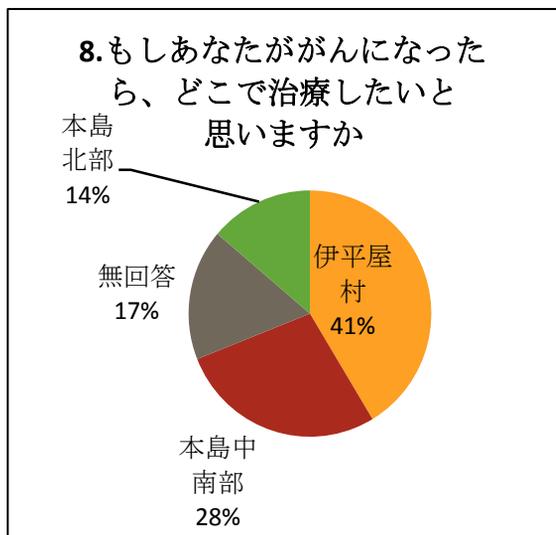
2016年9月30日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会伊平屋村
 参加者33人 アンケート回答率87.9%



7. 6の理由を教えてください

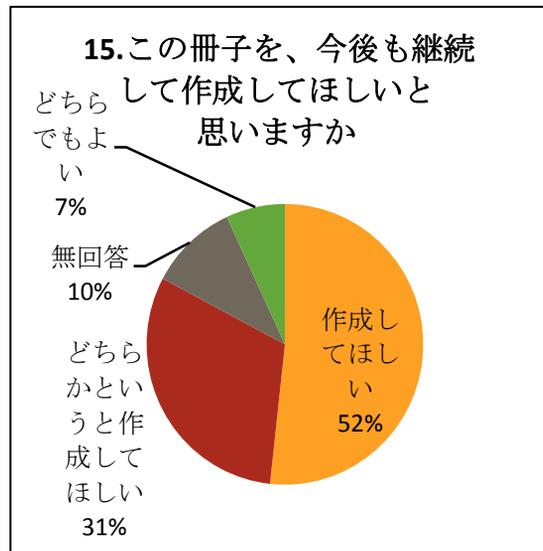
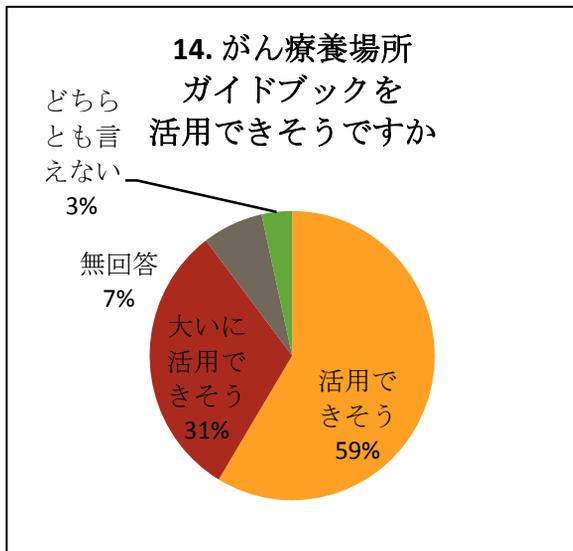
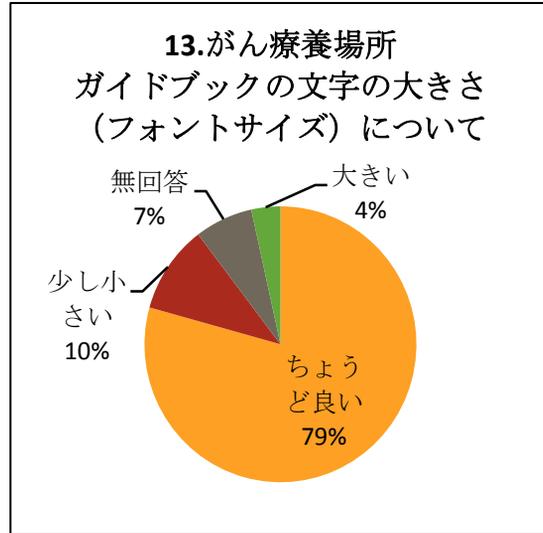
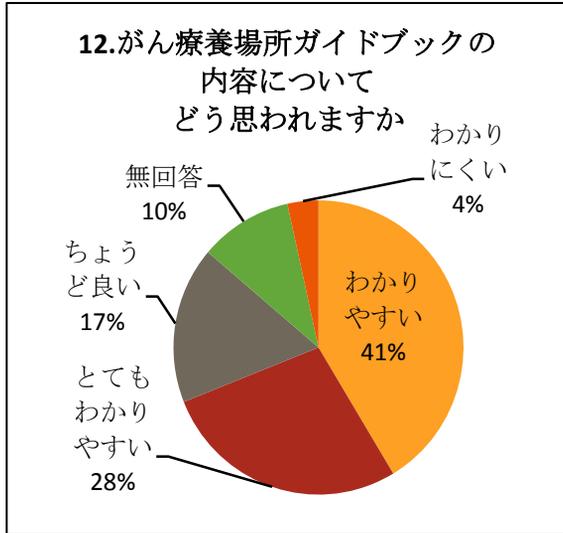
- そうしたいとは思いますが、家族に大変な思いをさせるなあ？と思ってしまう。
- 自分以外の方々に迷惑をかけられると思われるから村外の病院でもいいと思います。
- 最後であるなら自宅で良いかなと思う。
- 残された時間であるならば大切な人と過ごしたい。
- 最後まで友人達とかかわっていけたら…と思う（自分の場合）。または家族に負担をかけたくないとも思う。
- 他人に見られたくない。
- 家族の負担が大きくなければ自宅を希望する。大切な人がそばにいてくれる方が穏やかに過ごせる。
- 安心して家族と一緒にいたい。
- 家族と短い最期を過ごしたい。子供達と思い出を作り、子供達が私のことを忘れないためにもぜひ一緒に過ごしたい。
- わが家が一番よい。
- 家族の負担を考えると病院でケアを受ける方がよいと思う。
- 家族の気持ちもあるから。
- 希望としては自宅で迎えたい。
- 最期は痛みや不安が強いと思うので、点滴で意識がなくなるくらいの治療をしてほしい。
- 家族の理解が得られれば自宅で最期をむかえたいと思う。
→最後の船戸先生の話しを聞いて、自分が暮らしてきた好きな家、場所だから。
- 家族と一緒に暮らせるのであれば願う。しかし家族の負担になるのであれば考えてしまう。
- 家族といるだけで気持ちを切り替えることができる。
- 自分としては子供達がいる所で治療を続け最期を迎えたい。
- 最期は家族に見守られながら迎えたいから。
- 家族にありがたいことばで感謝を申し上げ家族に見守られ健やかに旅立ちたい。
- 家族と一緒にいたいから。

2016年9月30日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会伊平屋村
 参加者33人 アンケート回答率87.9%



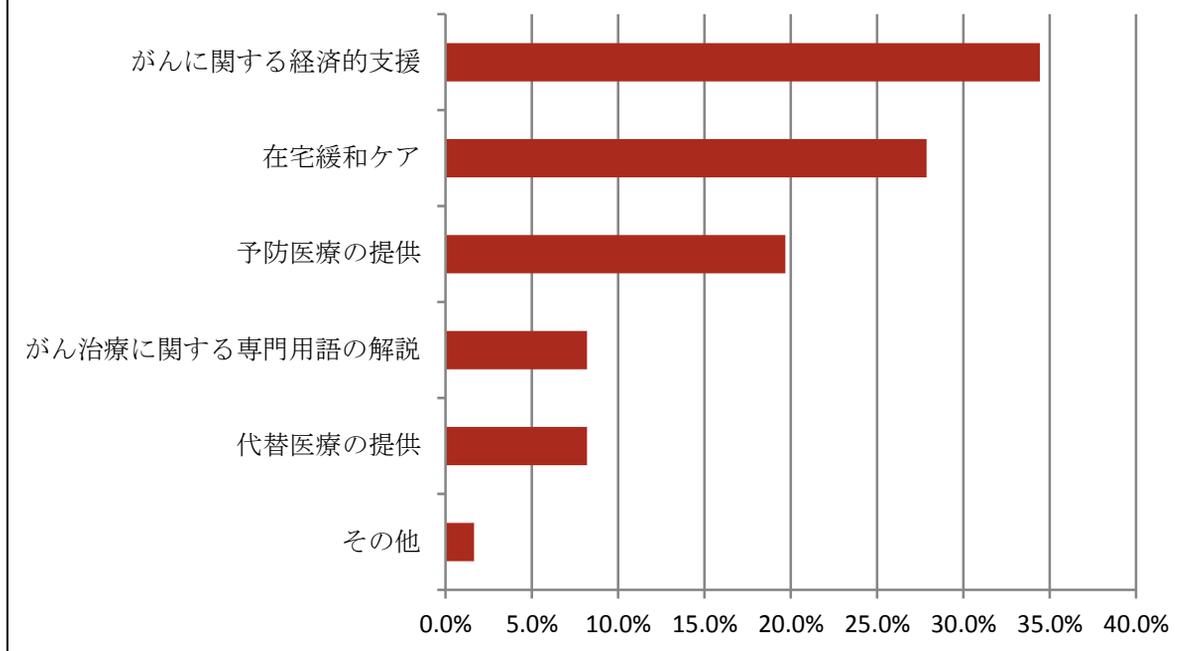
2016年9月30日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会伊平屋村
参加者33人 アンケート回答率87.9%



2016年9月30日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会伊平屋村
 参加者33人 アンケート回答率87.9%

16.療養場所ガイドに掲載を望む内容



17. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

伊平屋診療所の役目やがんに対する事がわかりました。もっと村民にも声を掛け合い多くの参加を願いたい。

船戸先生の話を聞いて心強く思いました。伊平屋に来てくれてありがとうございます。

病院と病院の連絡ガイドがあると思います。診療所にて待ち時間が長い事どうか方法ありませんかね。

ガイドラインであったが分かり易くてよかったです。

がんがとても身近な病気であること、また治療ができる病気だとわかった。

とてもわかりやすい。よいです。

初めての説明会で色々学べることも多かったので、これからも事あるごとに説明会をもってほしいと思います。

このように具体的対応や内容に踏み込んだ講演会はもっとあっても良い、普通になればと思いました。死に方を考えることは生き方ですね。

素晴らしいお話をありがとうございました。がんという病気についてこれからも学んでいきたいと思っています。

出来るだけ村民のニーズに対応した状況等金のかからない治療、診療所を目指してください。生きるには金がかかる。

船戸先生は素晴らしい先生だと思います。きめ細かく説明があるからです。

■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 伊平屋村
開催にともなう面会依頼

(伊平屋村役場)



(伊平屋診療所)



■療養場所ガイド活用説明会 in伊平屋村

講演：「伊平屋診療所のがん治療」
伊平屋診療所長 船戸 真史 医師



講演：「本書の使い方、入手方法について」
琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



琉球大学医学部附属病院がんセンター
平成28年度がん患者等支援事業

がん療養場所ガイド活用説明会in 北大東島に関する報告書

2016年12月9日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を北大東村で実施した。活用説明会では北大東診療所の小澤医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、北大東村役場、北大東診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 北大東島
開催にともなう面会依頼

(北大東村役場)

日 時：平成28年12月9日（金）15：30～16：00

場 所：北大東村役場

出席者：北大東村長 宮城光正 様

北大東副村長 鬼塚三典 様

北大東村役場 福祉衛生課長 大城勝彦 様

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター事務補佐員 又吉未央

(北大東診療所)

日 時：平成28年12月9日（金）17：00～17：30

場 所：北大東診療所

出席者：北大東診療所長 小澤萌 様

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター事務補佐員 又吉未央

■療養場所ガイド活用説明会in北大東島

日 時：平成28年12月9日（金）19：00～20：00

場 所：北大東保健・福祉センター 1階 リハビリ室

内 容：（1）講演「病院のかかり方、情報の集め方」

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

（2）講演「北大東村でできるがん医療」

北大東診療所長 小澤萌 医師

（3）質疑応答

がん患者さんのための 療養場所ガイド

本島周辺の離島村編
(東園村・渡名喜村・座間味村・渡嘉敷村・北大東村・南大東村)
琉球大学医学部附属病院 がんセンター



がん専門医が伝える 病院・診療所の上手なかかり方 もしも島で がんになったら

北大東村のみなさまへ

がん診療の疑問や不安を解消する説明会を北大東島で開催します。地元の診療所でどんな治療ができるのか、がん情報さがしのコツを、専門家の立場からお話します。がんはすべての人にとって身近な病気です。情報は“力”となり療養生活を支えます。まずは「知る」ことから始めませんか。

琉球大学医学部附属病院 がんセンター長
増田 昌人

ーがん療養場所ガイドブック活用説明会in北大東島ー

(講演)

- ・北大東島でできるがん医療について 北大東診療所 小澤 萌 先生
 - ・病院のかかり方、情報の集め方 琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人
- ※終了後、医師による個別がん相談対応あり

日時:12月9日(金) 午後7時~8時(午後6時30分開場)

場所:北大東保健・福祉センター 1階 リハビリ室

対象:北大東村にお住まいのみなさん

参加費:無料

主催:琉球大学医学部附属病院がんセンター 沖縄県がん患者等支援事業

内容に関するお問い合わせ:琉球大学医学部附属病院 がんセンター

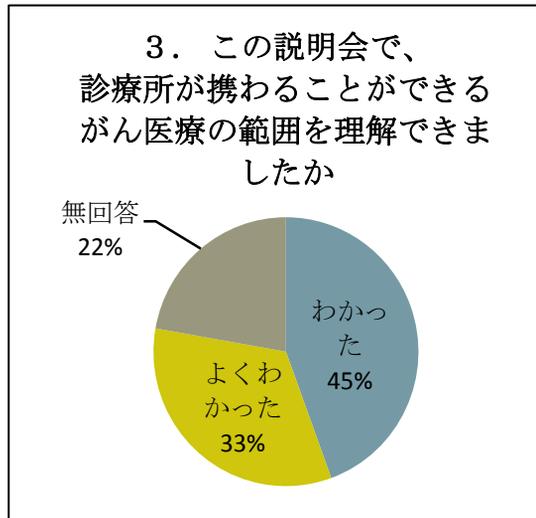
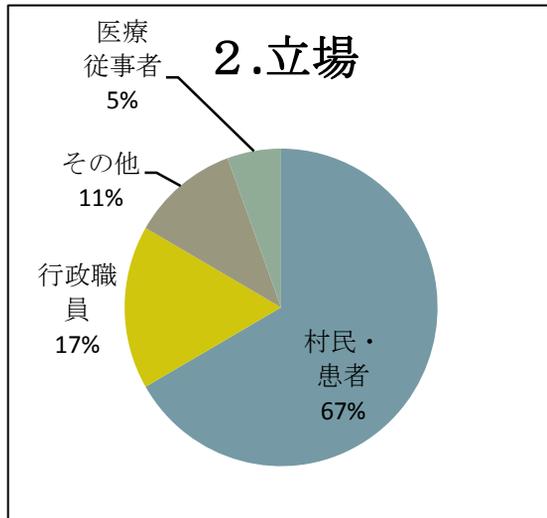
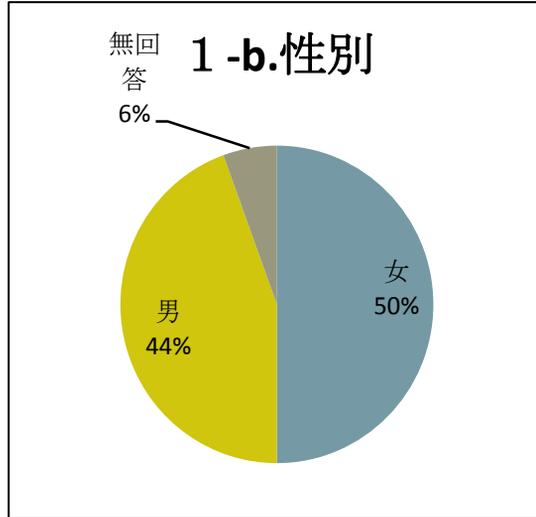
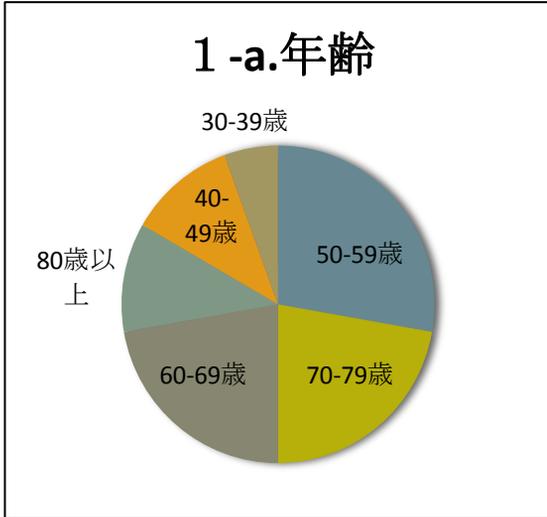
☎ 098-895-3331(内線4359)

がん患者さんのための療養場所ガイド
活用説明会 in 北大東村

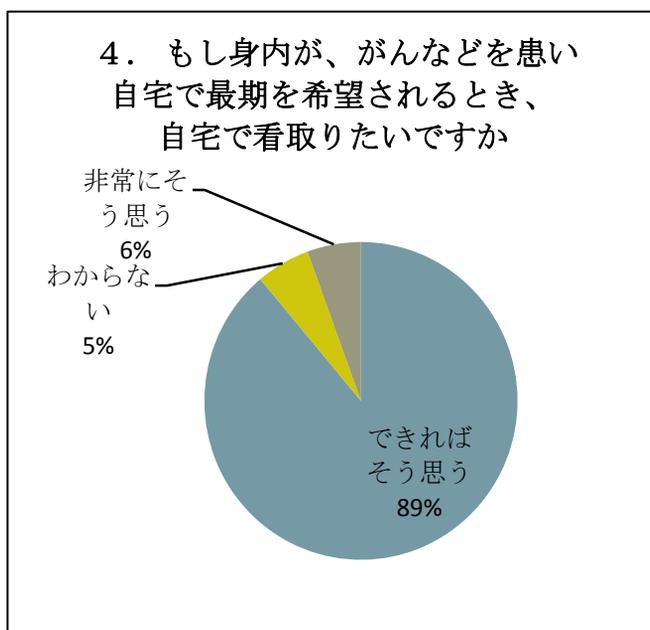
琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人



2016年12月9日（金）
がん療養場所ガイドブック活用説明会北大東村
参加者20人 アンケート回答率90.0%

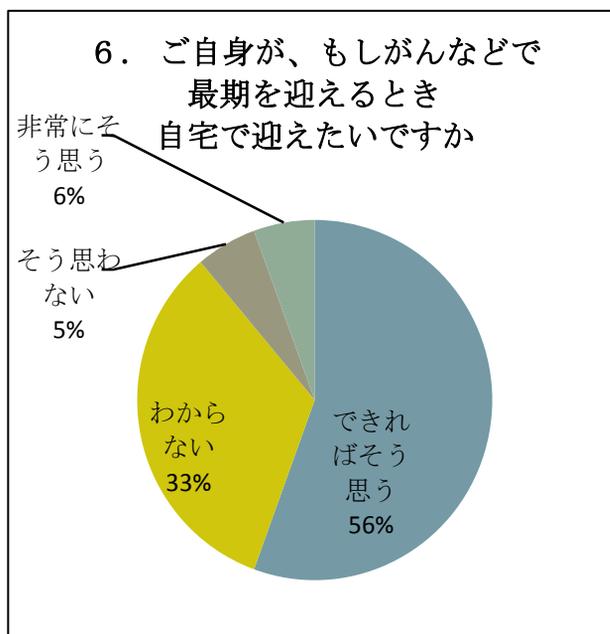


2016年12月9日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会北大東村
 参加者20人 アンケート回答率90.0%



5. 4の理由を教えてください
できる限り希望を聞いてサポートしてあげたい。
家族との都合で(交通の関係)。
生まれ育った島で看取りたいのは誰でも感じていることだと思う。 反面、周りに迷惑をかけるのではと不安を抱いているかと思います。
本人の希望に沿うことが大切と思う。
本人もしくは家族がそのように願うと思う。
しかし子供たちに任せる。
家族の介護能力、周囲の福祉サービスの内容による。
本人の希望が大事かと思います。
島では落ち着くかなーと思います。
ステージで決めたいかなって考えます。
本人はすぐ帰りたいのに状態が悪化し、 島に連れて帰ることができなかったので、今でも心が痛む。
身内がどう考えているかわからない。 北大東診療所でどの程度の療養ができるのか。
長年、住み慣れた家なので最期は家族で看取りたいです。

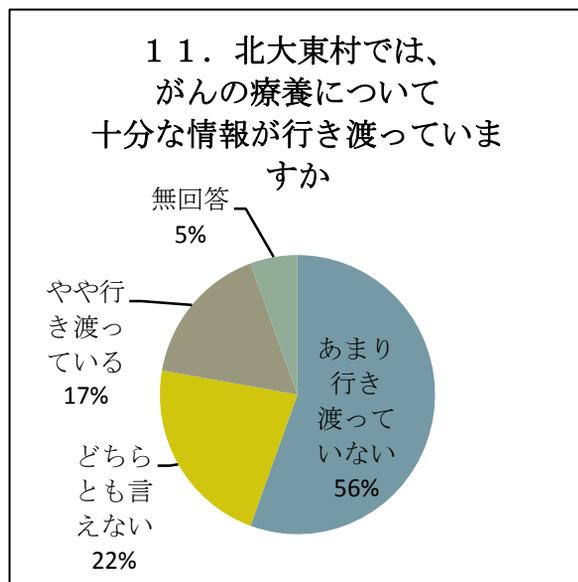
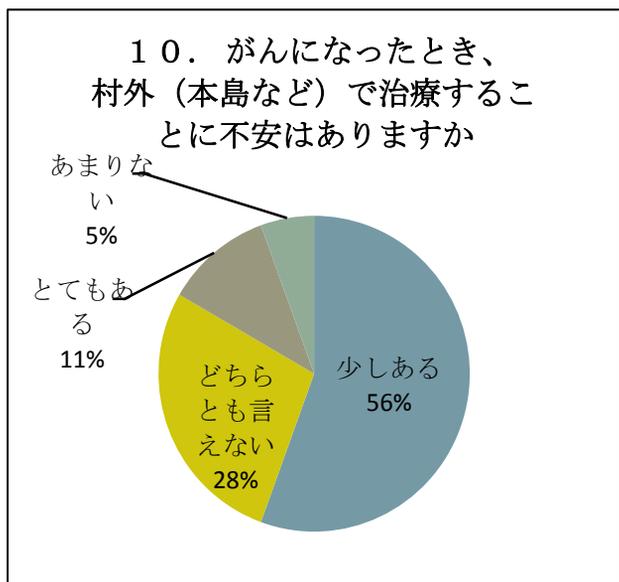
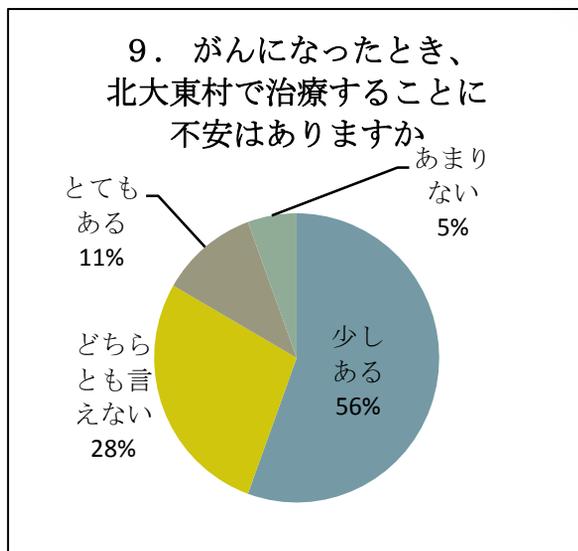
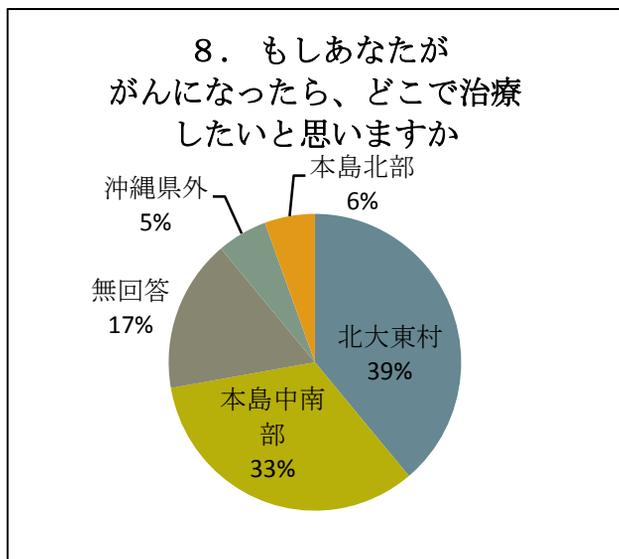
2016年12月9日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会北大東村
 参加者20人 アンケート回答率90.0%



7. 6の理由を教えてください

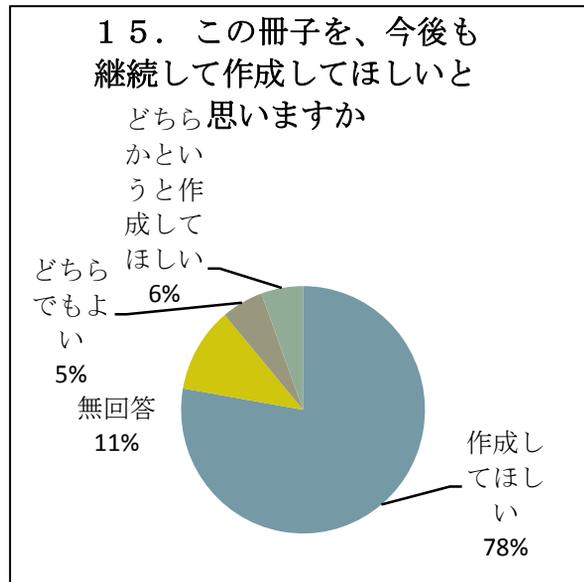
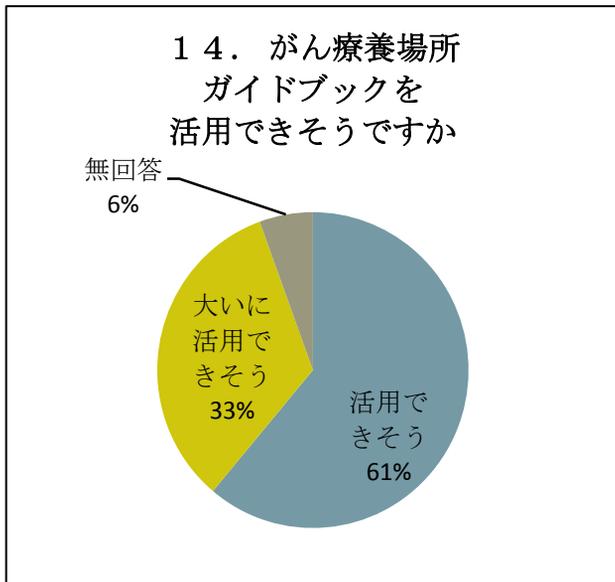
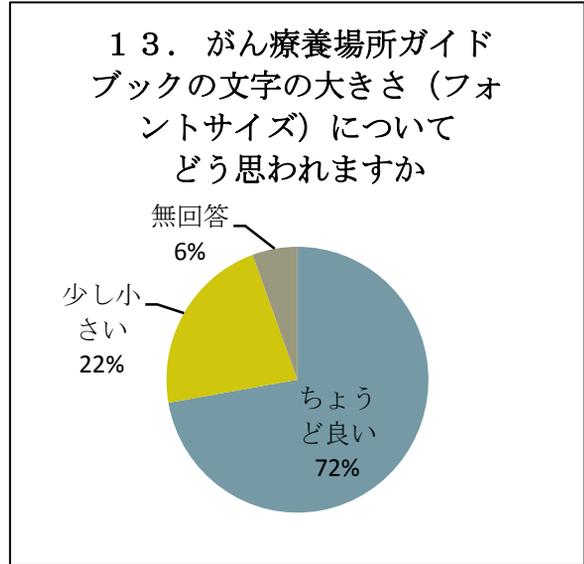
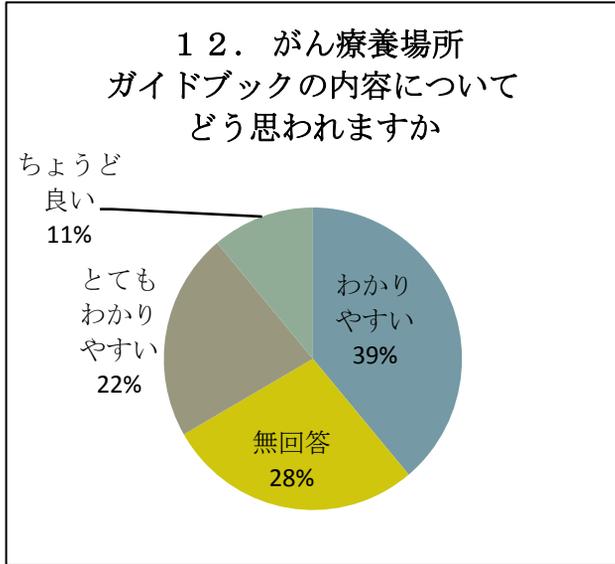
家族に迷惑をかけることになるのも心苦しい。
複雑。
家族との都合で(交通の関係)。
やはり本島へ出たりすると医療費がかさむ。
自分が一番落ち着くところが良いと思う。
自身だったら病院で最期がよいと思う。
子どもに任せる。
家族の介護能力、周囲の福祉サービスの内容による。家族と一緒にならどこでも。
今までは良くわからなかったが、増田先生、小澤先生のお話を聞いてどうするか考える必要を感じました。
できれば自宅で過ごしたい。
専門医のいる病院を希望します。家族に負担を掛けたくない。
身内の問題、経済的問題だと思う。
子や孫たちと一日でも一緒にいたいから。

2016年12月9日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会北大東村
 参加者20人 アンケート回答率90.0%



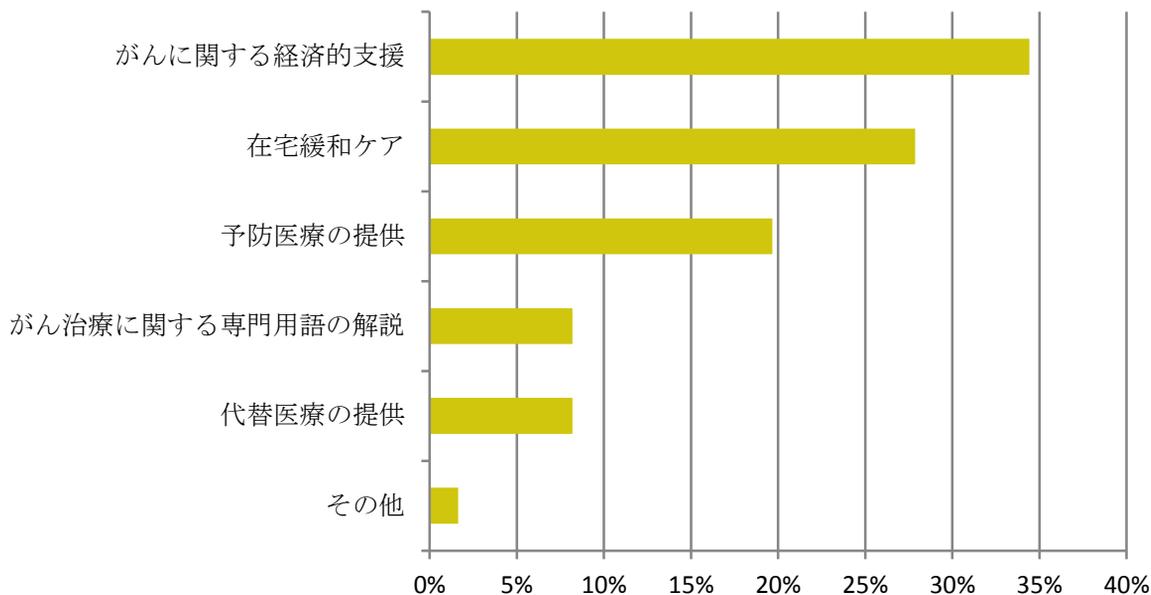
2016年12月9日（金）

がん療養場所ガイドブック活用説明会北大東村
参加者20人 アンケート回答率90.0%



2016年12月9日（金）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会北大東村
 参加者20人 アンケート回答率90.0%

16. 療養場所ガイドに掲載を望む内容



17. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

がんに対する考えが少し変わりました。長く健康でいられるようにしたいです。本日はありがとうございました。

すごく解りやすく良かったです。ガイドブックを手に入れる方法は？

サポートが予想以上に行き届いているので安心しました。

毎年説明会をやっていたきたい。がんの説明会で少し考えることになった。

毎年住民健診または人間ドックを受けています。その結果票を診療所に持って行き、先生から結果を説明してもらっています。歴代の先生、ありがとうございます。近日中に今年の検診票が届きますので小澤先生のお世話になります。よろしくお願いします。

増田先生の癒しの声で、とっつきにくい内容の話もずっと耳に入ってきました。とてもわかりやすかったです。

自分自身の健康管理、定期的に健診の大切さがわかった気がします。

「がん」に対する認識を深めることができた。

もしがんと診断されると頭が真っ白になって気がおかしくなるのではと思っていましたが、今日の話聞くことで前向きな考えを持つことができました。ありがとうございます。

大変わかりやすく良かったです。ありがとうございました。

とても良かったです。

■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 北大東村
開催にともなう面会依頼

(北大東村役場)



(北大東診療所)



■ 療養場所ガイド活用説明会in北大東島

講演:「病院のかかり方、情報の集め方」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



講演:「北大東村でできるがん医療」

北大東診療所長 小澤 萌 医師



琉球大学医学部附属病院がんセンター
平成28年度がん患者等支援事業

がん療養場所ガイド活用説明会in 南大東島に関する報告書

2016年12月10日

「がん患者さんのための療養場所ガイド」の刊行に際し、本書の活用説明会を南大東村で実施した。活用説明会では南大東診療所の黒田医師に講演を依頼した。また当地での説明会開催に際し、南大東村保健センター、南大東診療所を表敬訪問した。

■がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 南大東島

開催にともなう面会依頼

(南大東村保健センター)

日 時：平成28年12月10日(土) 18:30~19:00

場 所：北大東村役場

出席者：南大東村長 仲田建匠 様

南大東村役場 福祉民生課長 大城盛明 様

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター事務補佐員 又吉未央

(南大東診療所)

日 時：平成28年12月10日(土) 17:00~17:30

場 所：南大東診療所

出席者：南大東診療所長 黒田格 様

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

琉球大学医学部附属病院がんセンター事務補佐員 又吉未央

■療養場所ガイド活用説明会 in 南大東島

日 時：平成28年12月10日(土) 19:00~20:00

場 所：南大東保健センター 1階

内 容：(1) 講演「病院のかかり方、情報の集め方」

琉球大学医学部附属病院がんセンターセンター長 増田昌人

(2) 講演「南大東村でできるがん治療」

南大東療所長 黒田格 医師

(3) 質疑応答

がん患者さんのための療養場所ガイド 活用説明会 in 南大東村

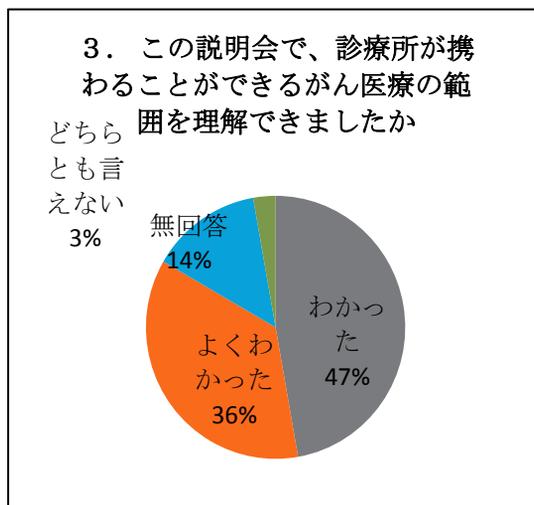
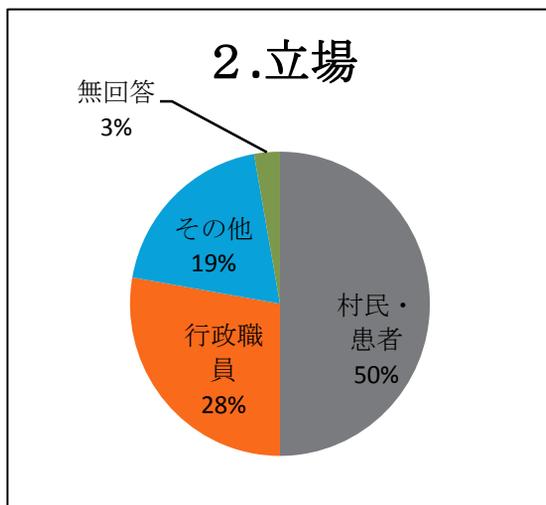
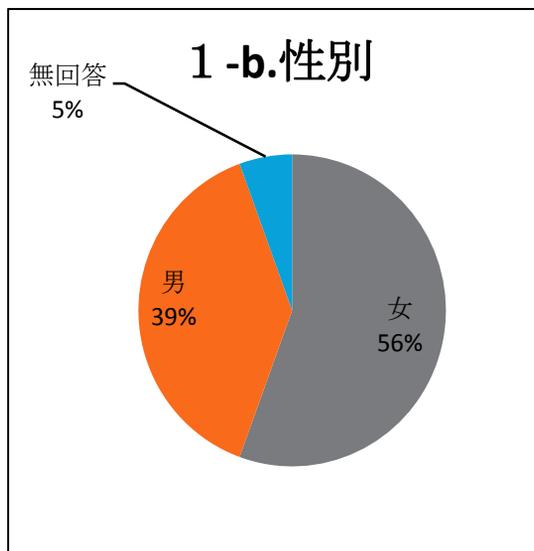
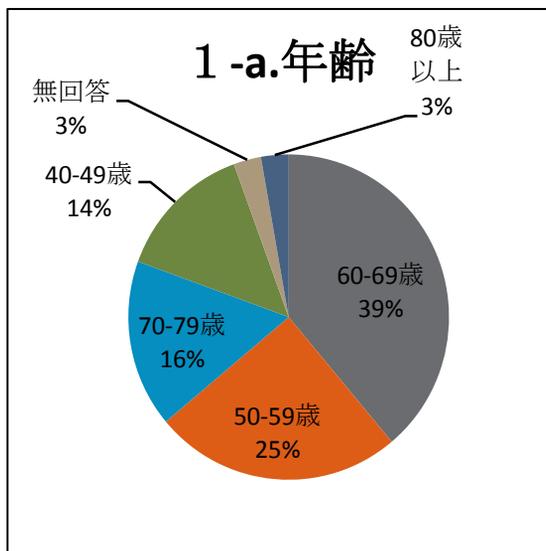
琉球大学医学部附属病院がんセンター
増田 昌人



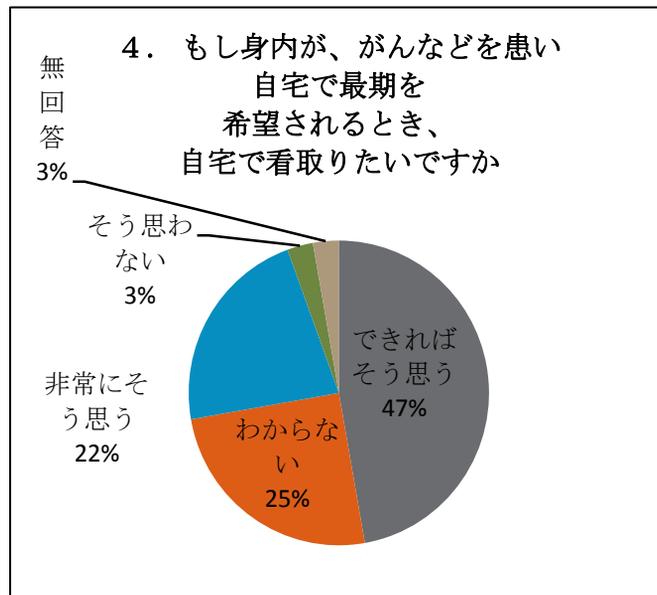
南大東島でできる がん医療

南大東診療所 黒田 格

2016年12月10日（土）
がん療養場所ガイドブック活用説明会南大東村
参加者57人 アンケート回答率63.2%



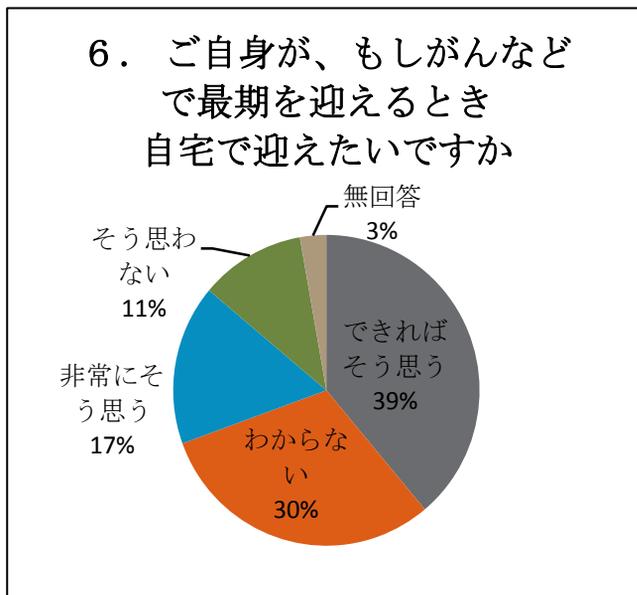
2016年12月10日（土）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会南大東村
 参加者57人 アンケート回答率63.2%



5. 4の理由を教えてください

- すでに母を自宅で看取ったので。
- 家族の負担が心配。
- 本人の希望に沿いたい。
- 痛みを抑えられるのか心配。
- 最期を自宅を希望しているのなら、時間があったら徹底的に看病したい！
- 病院での看取りは切ない。家族や身内の多くで送りたい。患者の立場になったとして、やはり身内が側にいたほうが嬉しい。特に孫等の小さい人たちに身近で死を馴染ませたい。
- できればそうしてあげたい気持ちですが、本島の病院で出来る限りの治療もしてあげたいと思っています。
- 本当に当事者とうまく話しができるのか(今まで本人に知らせないことが多いと思う)。話しを切り出すタイミング(診療所の先生がなかに入ること)ができれば上手くいくと思う。
- 本人が希望しているので。
- 本人が痛がってなければ自宅で看取りたい。
- 本人がそのような希望であればそのようにしてあげたいです。
- 希望通りにしてあげたい。
- 理由はありません。
- 希望に沿いたいと思うので、頑張ると思います。
- 先生の話聞いて安心しました。それでもむずかしかったら考えたいです。本人の希望に沿いたいです。
- 自宅で看取りそして家族にも負担をかけない。
- 症状によって苦しみがでなければいい。場所は関係なく。

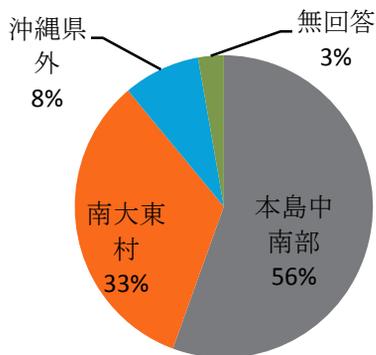
2016年12月10日（土）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会南大東村
 参加者57人 アンケート回答率63.2%



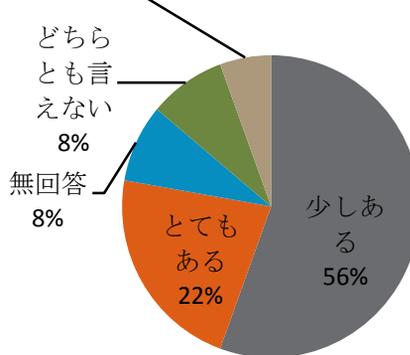
7. 6の理由を教えてください
家族と最期はいたい。
家族の負担が心配。
病院に長くいたくない。
考えたらこわい。がんは痛いと聞いているので、やわらげるところがいいかな。ホスピスで音楽を聞いて！
5の質問の回答プラス、住み慣れた場所で心置きなく安心してあの世に旅立ちたい。身内にこれまでの人生を共にしてもらったことに感謝を伝えたい。
家族に看取られながら、住み慣れた我が家でできるだけ悔いのないやり残しがないように。
急でわからない
家族の負担にならない程度の時は、自宅で迎えたいが大東の場合には医療の部分で迷う。
自由に生きていられる。
家族のそばにいたい。
住み慣れた家で死にたい。
家だと介護が難しくなったら、病院のほうが。みんなの負担を考えてしまいます。
それがベストだと思う。
家族に負担がかかるから。

2016年12月10日（土）
 がん療養場所ガイドブック活用説明会南大東村
 参加者57人 アンケート回答率63.2%

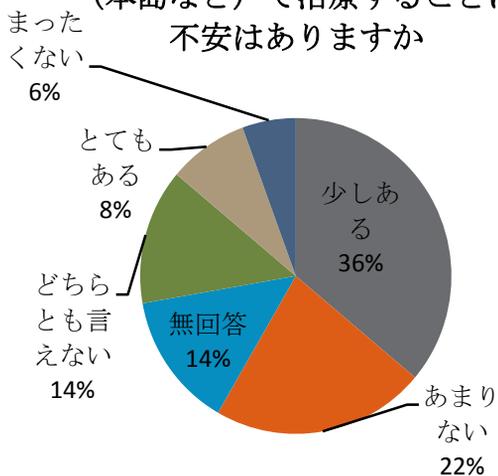
8. もしあなたががんになったら、どこで治療したいと思いますか



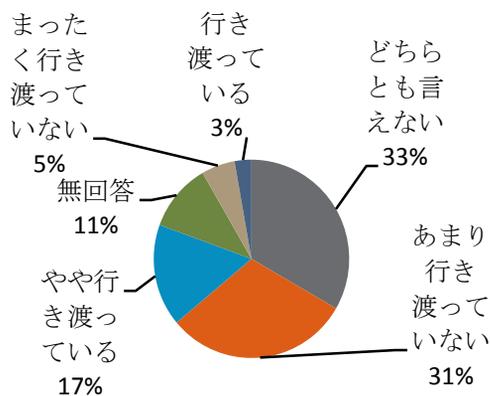
9. がんになったとき、南大東村で治療することに不安はありますか



10. がんになったとき、村外（本島など）で治療することに不安はありますか



11. 南大東村では、がんの療養について十分な情報が行き渡っていますか

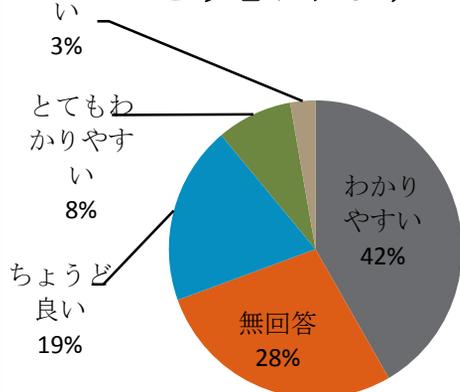


2016年12月10日（土）

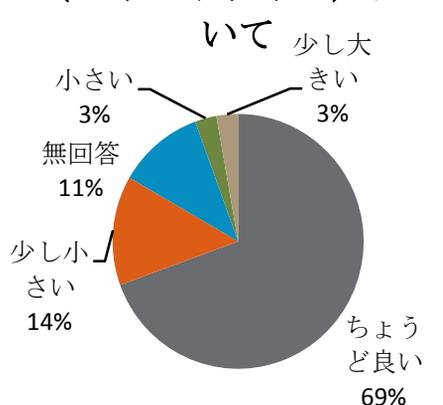
がん療養場所ガイドブック活用説明会南大東村
参加者57人 アンケート回答率63.2%

12. がん療養場所ガイドブックの内容について

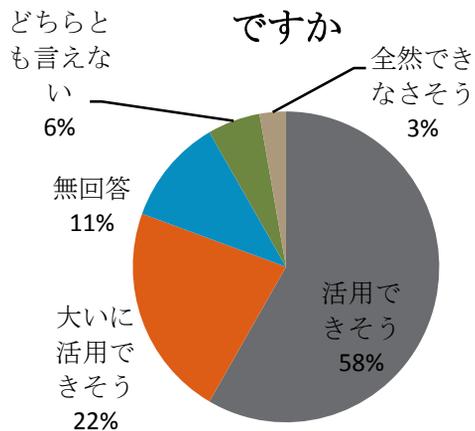
とてもわかりにくい
どう思われますか



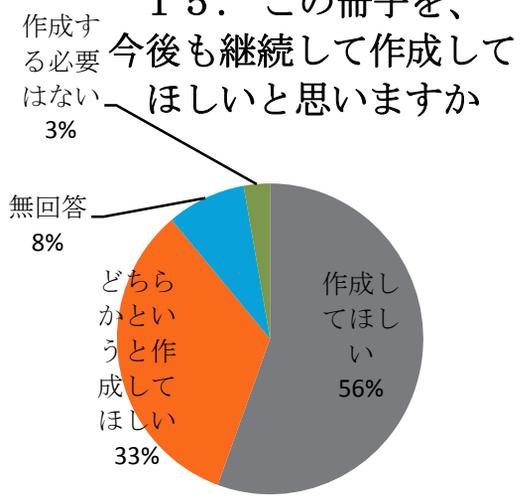
13. がん療養場所ガイドブックの文字の大きさ（フォントサイズ）について



14. がん療養場所ガイドブックを活用できそうですか

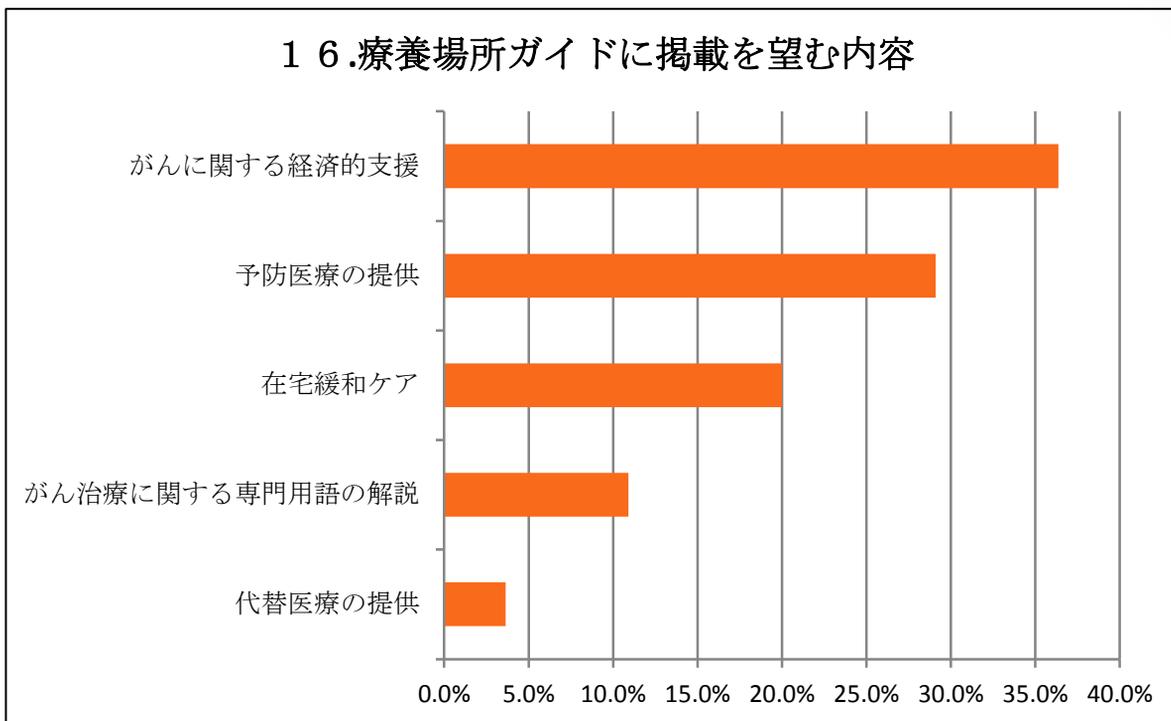


15. この冊子を、今後も継続して作成してほしいと思いますか



2016年12月10日（土）
がん療養場所ガイドブック活用説明会南大東村
参加者57人 アンケート回答率63.2%

16. 療養場所ガイドに掲載を望む内容



17. その他 説明会の感想や、診療所への要望など何かあれば自由に記載してください

がんの療養についての情報を得ることができた。またインターネットでのいい情報を得るURLを紹介してもらってよかった。

テレビできょうの健康を見て、当てはまるときは専門医院で検診を受けてます。

診療する場所等が、離島のため人間等が身近過ぎるので、先生と事務所は離すべき。

とてもいい話が聞けてよかったです。

1年に1回はがんについての説明会、お話しがあれば良いです。

がんに対する不安がなくなりました。告知されたら前向きにがん向き合い治療できそうです。

ゆっくりな口調でわかりやすかった。時々沖縄訛りがあって親しみが持てた。

■ がん患者さんのための療養場所ガイド活用説明会 南大東村
開催にともなう面会依頼

(南大東村保健センター)



(南大東診療所)



■ 療養場所ガイド活用説明会in南大東島

講演:「病院のかかり方、情報の集め方」

琉球大学医学部附属病院がんセンター長 増田 昌人



講演:「南大東村でできるがん治療」

南大東診療所長 黒田 格 医師

